

一代記圖繪

五篇

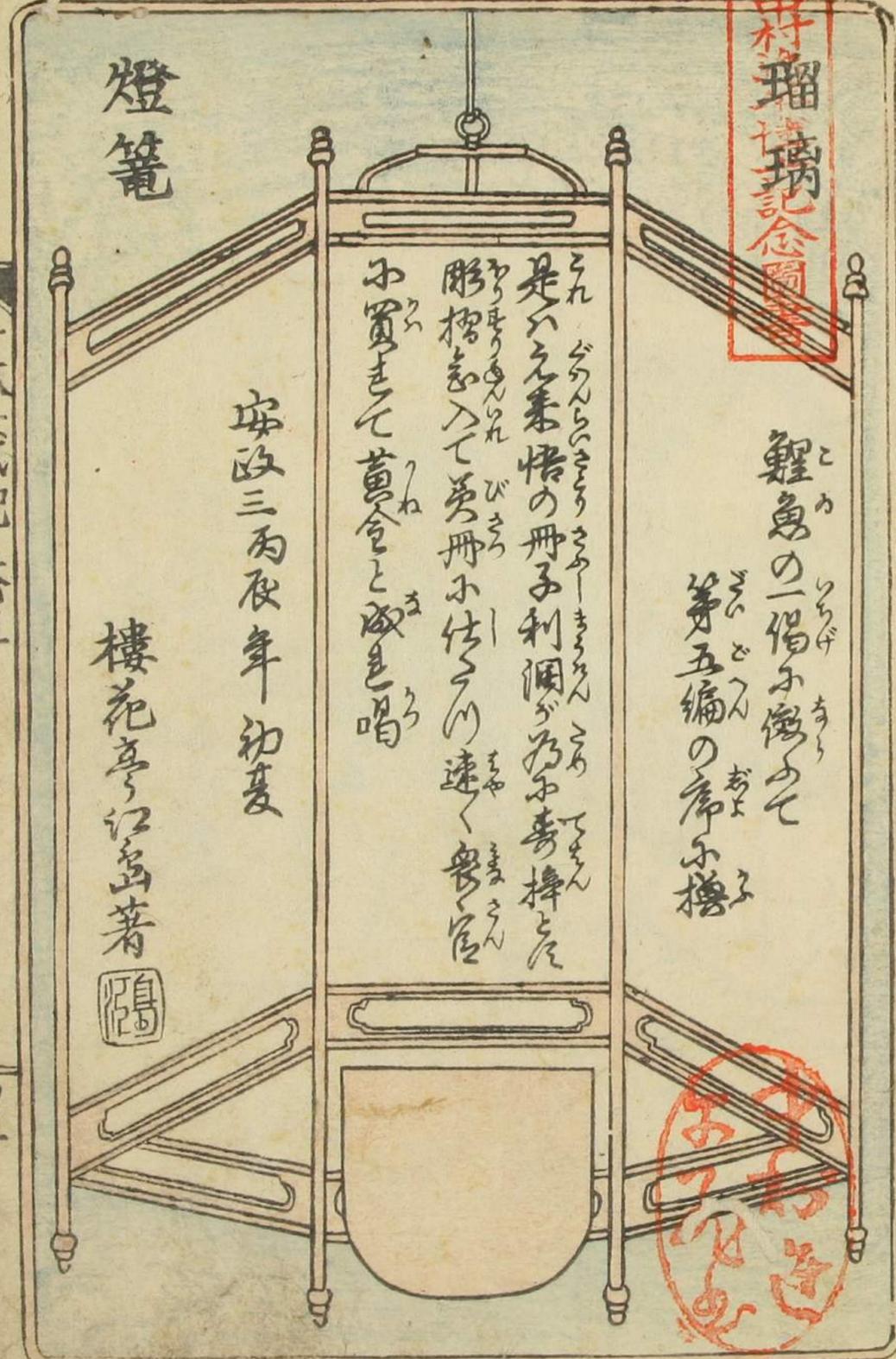


特別
A13
4301
5



五 5

燈籠



故村瑠璃記念圖

安政三丙辰年幼麦

樓花亭江島著

陽

鯉魚の二偈不徳のて
第五編の序不徳

これ かならぬさうさやーまきん ころり
是のえ素悟の冊子利潤が乃不素持とん
彫摺意入て勇冊不仕の速く衆官
お買きて黄合と成色唱

中村本氏贈

289
136
5

佛

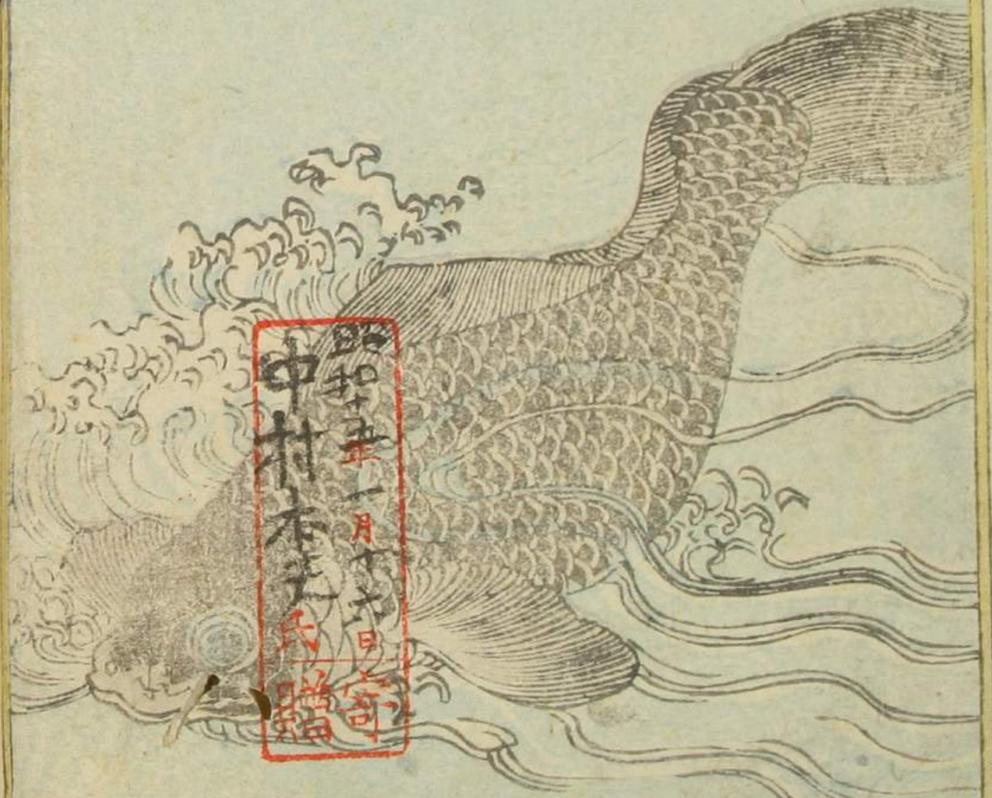
1102
56
5

322
1.4
33

會圖

五編

江島著
芳晴画



中村本氏贈

76 5004

76 5000

<2000-549>

活殺の剣法あり
 彈機の勇極あり
 室ふこれ義吏
 無當といふ者
 所期
 劍戟も傷と能く
 語助 體 俠客



時
 時

劍法ハ原その身せまのりあり
 研まきまき人まき我を研まき
 勝を運ぶまきと
 不実あり
 征も
 遊も
 一心の
 氣を
 合ふ
 階は



越前府中の
 名士
 有田十人



事一七神皇正統記
 事一七神皇正統記
 事一七神皇正統記

江州坂下
 藏田の神職



佛と魯未世の傍を憎む
 者勢くらねど匹夫
 匹婦をわらうら
 一徳ありとをん
 ねがひは神小托老
 福富の奸針ら
 獅子身中の虫小
 答しく我西法を
 辱くむハ最憎むべく
 愛むべしそ最幸ひありて
 官刑を免ずと有とらふ
 天徳争で怒まべんや罪やゆらふ事

郷士
 松田
 勘右
 工右
 門

敬請をむろ一彼流集玉お

釋尊お法一おひ一あり

玉の數ハ一百ハ云此

七十二候地の三十六禽と

表一云古武の月日ハ

候々たりとぞ織袴ま々

尾袴あり梵あての袴多履と

ハハ華あら應器とらひ

ま々鉢蓋といり



一休一代記圖會卷五



一休和尚の體山へきさうひい方のひととむらめんさてもゆき

よりそきけりまうなと。ちかめかり一なるふさづかひらまごも

知て一休とていいうる人と尋ねたまふ。愚僧の者ゆかりき

同臥者あてゆるがはふとあて一兄仕り人バ。余り同系かゝる白

くはまふあ一杉のゆる款一前つらうらんとぞ平つりくと

しそゆるとのさまんがひどりども一休といけいおあひうけわだ

あふりしそひりとりふつ坊うな。とてあふりあめくらのうさのたま

すむらこのうそふまてゆるぐさむとやその身をわたりてそ

とてうそさむげあるありあて。終ハは山の能舞る物と

そりの奴よりもうすさありつきあて短くびのいとあぶらさ

解とて侍り款とあんむらうふささうりとほふい申りあひる

ふ一休身ふもろけをそらうとあまてとら一なるがやうく

一休一代記卷五

五

とらさるる。純をよまのせけるきて厚く礼とのべ下白
あさましむる。依あて一人のひとりややう。かる名傍まきせ
うよすまされり。教よふ大洲の階。教ふ賢とよめとやうを
いろふとらふよ。いつきもむと月トてきくを今一教よび
まわしせん。又、教うけなるふ。一休を何すふやと作らるる
あつきのようやふ。一休をひひてそれなどのみまきし
とゆなるるり。心教とあきおきおきよとて。とらなる
葉をふ休ひておろる。くおとらき大洲の賢とよめ
えなぐり名あもあつきのり。大洲の賢とよめ
うま。舌の根と握ひり。お大洲の心教おきよとて
弘法大州活仏

死わが世そののむとる

と一筆ふきりくとあてあるひて下向あふ。く海きり
ゆありとのときせとて学通ふえせられ。極難おとけり

ありーふまきとひとりおとあまきせりたるなり
さて一休和尚能は河村の葉をふまきせるとらあ
のきふあのとてあつんで横おふねる。松のありたる
流とあつめて。は松とあまふえる。のやあるとらとまふ
はとえりりへりりえりりえりりえりりえりりえりり
河村の葉をふまきとてあつんで河村の葉をふまき
ひとやされたる。さてふいうふと作あれた。まよふい
こそりへとやされたる。和尚とらあてりりりりりりり
とてあつんであつんであつんであつんであつんであつ
和尚能は河村の葉をふまきせるとらあ
表の葉をふまきとてあつんで河村の葉をふまき
うりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
社僧一人まきりりりりりりりりりりりりりりりりり
けりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

是けまふ。彼傍のきよとつふ。こゝの奥の心傍るは傍るまといひの
 ろつとりののざり志とまひて和尙との傍のすくをなせる
 のとおぼしめし。心傍の心のすくとおぼしめせ。は
 やまふても一音とつくりあぐさると矢とてとつりしと
 さりく。とつりて彼傍のふんせし人かそのまねを
 そりて。さきく。心傍のふんせし人かそのまねを
 月うと申けまふ。和尙こそ人てよくこそを。らま
 こそ。心傍の心の一体といふのありと作らまはけま
 きていふねてきつて人。和尙あてまままてうとつり
 根あみさげおきととりまてうとつりてのふんせし
 うきつけとまるとねがふ。さきく。後のせうつりま
 ろりまんとて一体老人偶歌とをまてうとつり

を詩り

山里放光
 山麓吟落碧三
 三 上海浪高船片雲社
 一 山廟等一枝桑神片漲景
 二 山客成群數万人輪塵春
 四 中樓鐘動月輪惱宮
 六 山谷洗流煩本
 八 山花猶馥

一休老人偶題

二休老人偶題

山廟等一
 扶桑神
 山客成群
 數萬人
 山海浪高
 船行々
 山樓鐘動
 月輪々
 山龍吟落
 碧雲漲



一休一竹言卷五

山谷洗流
 煩惱塵
 山里放光
 三社景
 山花猶馥
 本宮春

一休老人
 偶頭



一休一竹言卷五

とあそむけしむの傍さくもよき四うるにや。冥ふ足
るまきとるまき一ののそのをこけるこそ冥ふれとて心
の
かるきとらんしゆる。くくてもこの馳を中ければ次は
うの茶城が侍とるまきをべいと

心傍

心多菜末

心雲飛片依回

心瓦發茂林片食送

心を海深也沈吟

心水沈抱相

心猿樹を

心玄

山花發茂林
山雲飛片
山鳥巢偷食
山僧來問道

山遠路幽深
山水碧沉沉
山猿樹抱吟
山客還相尋

かくあそむていとまやせてそりり

後不塚あきのころなり一休和尙人老ふありて心玄

心玄とゆつる又次第といふ明人ありつる。あると死海極計と

あそむ不登ひてける。林のあふ砕つひふを目のうちみ死

けるが今たのときふやける。後不ありと死をみるゆいり

のころをやとあひつる。後不とておひつるゆもあ。され

とも一休和尙人老ふあこころ中。心抱さつりども水一縁縁あれば

引等ともあこなれ。かる不意の死と仕りつる。こそとあこな

ともあがめすらめ。かる心とといひつるつひふむすくあり不

ける素子着着るはきささる。遠云のあうつぶさふ一休和

あくやとけしむ。いと中とささるあり。さうく不後の社念と

作らまら。あうるともあくや外。あうくはる和尙さる心玄と

あうささてまらると素三人とあう。あう一休作らまはけるを

いやくこまらまらう。いづる不及。引等つがさふあてつうを

るうせのらんりうとごひなりれどもは不より
山出あらんふらんのうごひなるく山出あらん
とありのうふゆふ。若もあけうくありきうひても。若う
へい山出あるうり又うご田舎人が我を
まよひて我出が居あるといふ事
を若うきらるがまよひなりと作ら
あありーう人と作られらる。一休さあ
月ありとありー

ける人のさとりと申んりてと極さ
るくうと心算の我をと何なるを
ととごむるものも知はず我が
やとらふものいともせずがうり
けこらうとらんさう人と作ら
いへべりさえずりて縁はゆねふ
あつぬさきや不とけあるらん
とあそをうらねば。一休よろうと
とよこらひらる

らまのえやじらふかから

月づきのらるらるささととーーままささをを

とよこのひて。山出變りつとありとてよろうとびらひて
うりける

○そあけこまらんさらの夜りとやうんりかすとさ
あひえとめふ。又母もささとらと心算のこが
何れのをり人

天と由地と由。我とも人と由。何ともあ
有り。生まぬされとをうりか
我茶ふかふともあるべし。我今まをさかの
一休不言卷五

らぬさまあひ。そをひらふ。さうらひらう中りあひりてゆりこぼとかく
のこしこしゆりてあはれぬまひとゆりこぼるべし

○あふこしとあはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし
あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

○たふ人ばやうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし
あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし
あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

○あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

○あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

あはれぬるさうゆりこぼるべしゆりこぼるべしゆりこぼるべし

前大増正祖守

はまき

みかた

うら

りき

おの

りの

ま

り

墨染の

そで

あ

ふ

梅

お

花

白

法眼親瑜



一休三巴卷五

一休三巴卷五



かみぐらぶく。毛取もゆつひみきさらばとりぬとみしれと
ころぐらぶの。橋とりぬ是外人の。ぬみそりりりるりららまき
せんのだ。理こまきと名づけてあんなまきとりぬ

一休和尚の足形おけり仙傳の徳とさげけのひしふ。びん
物まとい大のふまり。こまきお仙傳とい何とも念願まぬ
まといちまき。まてえさまんとて作らまきらる

大のふみあやう人のままごこと
不とけともなれ地づくへもの
むくひとのゑのころふまご月があるぬ

と作らまきらる。ま目うあまき物まのまらの中かくころく
い。都列のあまきのこと。平年玉更作りらるゑもゑの穢ホ
いけな。作らまきらる。ま目うあまき物まのまらの中かくころく
い。都列のあまきのこと。平年玉更作りらるゑもゑの穢ホ

ありとり人をや。とや人のかりからん
あまのりをする。山鹿のこま
ありとり人をや。とや人のかりからん

とあをを。まきらる。ま目うあまき物まのまらの中かくころく
い。都列のあまきのこと。平年玉更作りらるゑもゑの穢ホ

と作らまきらる。彼人けうとまき
柳をを。しるらるあひらん。野鹿の
あまのりをする。山鹿のこま

と作らまきらる。彼人けうとまき
柳をを。しるらるあひらん。野鹿の
あまのりをする。山鹿のこま

さて爰小治一も八月下旬の大雨大風をきりふくけし
 家堂^{がら}舞^ま踊^りもそとねりまは。横川^{よこがわ}の舟^{ふね}もあつたおちとりあつた一
 休^{いつ}和^わ高^{たか}人の心^{こころ}を舞^ま踊^りして。四^よ坊^{ぼう}の心^{こころ}もはさるる。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 大^{おほ}風^{かぜ}大^{おほ}雨^{あめ}の心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 のひてよくこころを舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 さりなごう^{さるいなごう}の心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 口^{くち}が^があつた心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある

あふの心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 と作^{つく}りまはるる。その心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 こそを舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 こが^{こが}舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 よと^{よと}あつた心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 と作^{つく}りまはるる。その心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある
 け^けは。その心^{こころ}を舞^ま踊^りして。何^{なに}とく^{とく}その外^{ほか}ある

新右衛門
風雨あ
菴室と
訪ふ



のとめがくまでまゐるといふのうらやうせんせめては一句とふし
とぬをきくと。心色の神ふすがりつ。後人のえおもきやうと
さぬ一まきば一肩の款とよこあき。如とさうそののりうのふ
くとを那みくそののちとえれが

我もさ後世のかし人とあはれまう

あらんしの二名のあつふまうせと

とわりのつれが。後人とまことまきと。あつらんとまのりんと

ざるに傍うまと。然して感下あつらんとま

又一休場へ山下向のとき。港の河津あふまひけるふ

家合山伏ありつる。いづれか物家と聞か。一休とて

ありとまへらまされば。後家あつれ。我もさまきとてあつらんと

いひる一休中さうといふもまきとてま。いづれかまきとてあつらんと

まてゆつせつ人と作られたまき。いづれか法かあつれ。あつらんと

不劫といひの如く。いづれか法かあつれ。あつらんと

ふりんで新道。いづれかのり合のりども目とめとてあつらんと

あんのどく。あんのへまきふ不劫の像火えんとま。あつらんと

を付山伏ありえんとつら。各とてまきとてあつらんと

あまきのあひとあ。けまこと一休のさうふふまきとてあつらんと

あつらつら。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

まきとてあ。いづれか不劫像かまきとてあ。いづれかあつらんと

の赤木の殊教とさうりくといふんべ。一行とていのりけるが
一切の如くすまふまゝにまゐるねんもなうたれが。さうさうや
よこさなるけりて十文もたれのんとさあよ。あびうらんなんをりく
といふどもたをりぬかまづ。一体かうくわがりや。そのまき入
る糸のまき入とのりぬかあびうらんけんゆをさうゆひつあひあ
あの大のいりりとさめ。さうまぢあかあせんとかささうさう
登殿のまきめーとさうりく。うの大あひと目んせとさうさ
のさまうバ。きーゆいりまらたなれどもまき飯一月んて。んん
とて尾とありまうたれが。山体ゆまきゆとけー。とる人掛別
あるまうまゝと観せぬめいをさうりけり

○観見法界 草木花鳥悉皆成仏

ゆふをまき新地月やどのとまりわて。天地万法の観見悉
くまら月やどのとまりと遊らうよ

○草木花鳥悉皆成仏 人界のいふあふよなまづ

むろーあつと 観見法界 草木花鳥悉皆成仏 といひ
あさうらととつらまことのみ

ゆふとさうの観見月やどのとまりとあふせんといふれれども
観見の人へをさうしとてまのまきりたりとさうあうて下
と草木も月やどのあひあてらまされがけり。又或の
ゆふらととつらまことのみとさう 観見のうをり観見なるを
○うらとあふまふゆのりのま

されたとて細とひとあまきりふあゆあま。風のまきまのまきま
ゆは月やどのあひあてらまされがけり。又或のまきま
目んせも月やどのあひあてらまされがけり。又或のまきま
観のまきまをさう。ゆふらとあふまふゆのりのま

○観見法界 草木花鳥悉皆成仏

ゆふとさうの観見月やどのとまりとあふせんといふれれども
観見の人へをさうしとてまのまきりたりとさうあうて下
と草木も月やどのあひあてらまされがけり。又或の
ゆふらととつらまことのみとさう 観見のうをり観見なるを
○うらとあふまふゆのりのま

どの世に生れぬ人の人なればなり

○あつちの世の春のけしきなり

月をよめけしきなり。さきとあり。物の心をさきなり。

○釈迦生記とてなれり。釈迦の生るる所なり。釈迦の生るる所なり。釈迦の生るる所なり。

二世といふ。世のけしきなり。さきとあり。物の心をさきなり。釈迦の生るる所なり。釈迦の生るる所なり。釈迦の生るる所なり。

○混沌のいづくともなり。混沌のいづくともなり。

混沌といふ天地のまじりたる所なり。是れ混沌のいづくともなり。混沌のいづくともなり。

○又母生記のせん釈迦もなり。母生記のせん釈迦もなり。母生記のせん釈迦もなり。

母生記のせん釈迦もなり。母生記のせん釈迦もなり。母生記のせん釈迦もなり。

又母生記のせん釈迦もなり。母生記のせん釈迦もなり。母生記のせん釈迦もなり。



一休一代記卷五

一休一代記卷五

藤原の御歌
藤原の御歌
藤原の御歌

藤原の御歌
藤原の御歌
藤原の御歌

はるもあり又の御歌

藤原の御歌
藤原の御歌

藤原の御歌
藤原の御歌

又ある末の御歌

藤原の御歌
藤原の御歌

柳不緑花不紅
柳不緑花不紅

○又ある人一体の御歌

御歌の心
御歌の心
御歌の心

御歌の心
御歌の心

御歌の心
御歌の心

御歌の心
御歌の心

○又ある御歌
御歌の心
御歌の心

御歌の心
御歌の心

不詳海鏡徳山御
一休不詳巻五
松葉工更強早後
松葉工更強早後
松葉工更強早後

畫と詩一筆下

とそを乃れとらるる月由すさまじくそ我の毛由ぶらるる

○たしあつて雲のそつといあぐるとも

ぐどんの鐘とこのまきこやせん

きゆうとらんそそのよりあしとらぬわが

せんあくとおあくおくそそ

○志中といふことおかきふおて

多くの人とまきふするが
くわいふことおまきふするが

○是の世に邪の邪にやあき・生れ死に死

花の花・あはあ・子あふふ・あいつち

世の世に邪の邪にやあき・生れ死に死
花の花・あはあ・子あふふ・あいつち
いふやぬあしやうのきやうげりりりり
世の世に邪の邪にやあき・生れ死に死
花の花・あはあ・子あふふ・あいつち
いふやぬあしやうのきやうげりりりり

○あめあつて雲やこりりといふつれど

とくれをおるが 雲のあ

あめ 何とあつて雲やこりりといふつれど

あつてあつてとくらるるりりり

○我のこまはゆのそとづちようよりあつてまきぶらるる

あやまうてふさうとよきとあふのふよ
 そのころこくあくまふのふよ
 ○るれあとのうこふふなるるるる

あまんのさふあやうすきさう
 りんさふあまんみ化さう
 あとさうてまんのこみせよ

○^{あま}つゆりまえのころてもあふるる
 へさうこのきふのさうさうる

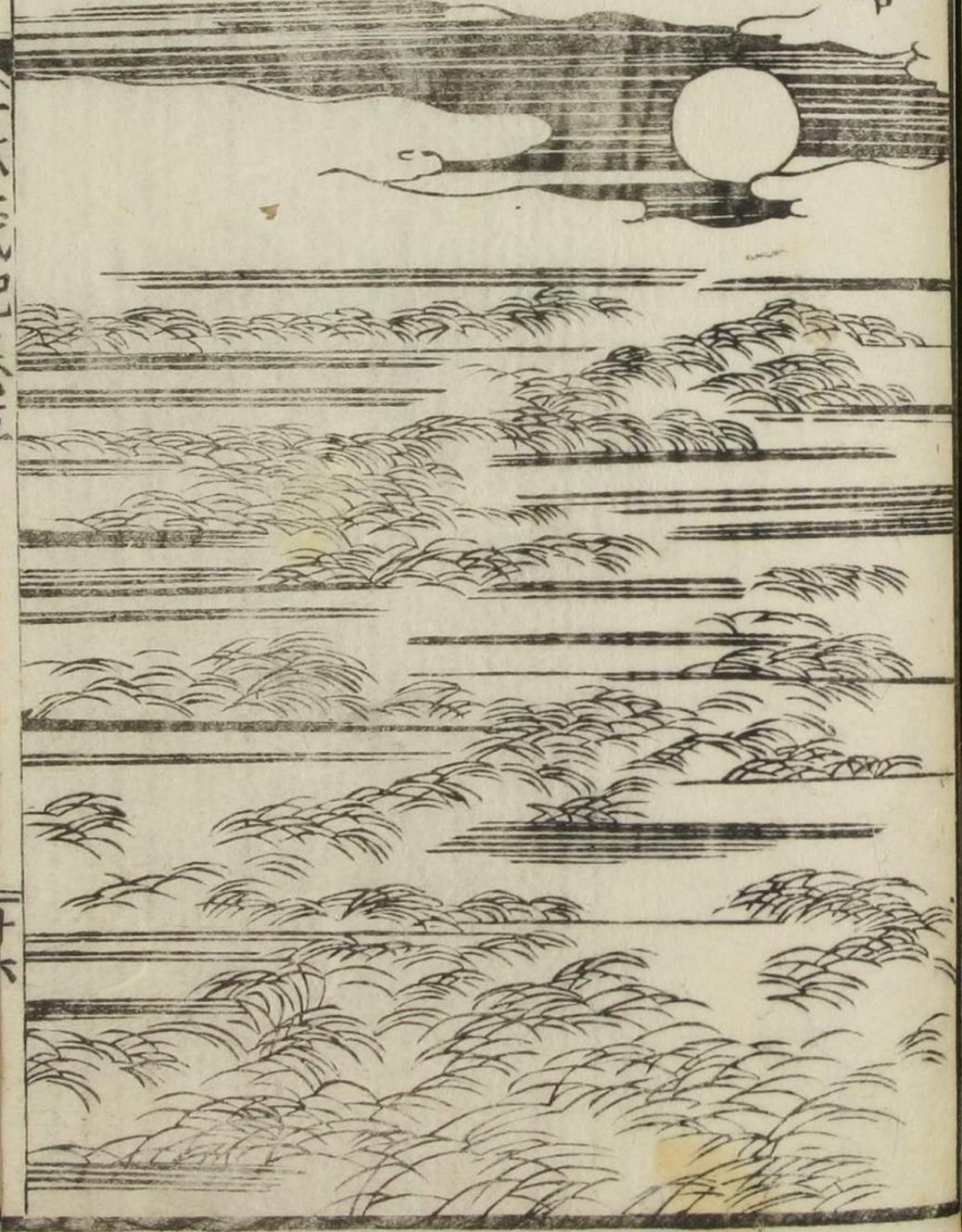
りまづまのうげふさたさう身とあれが
 りまづるるあふあふりもあ

○あふあふさうあふのあふあふ
 うげもさうあふあふさうあふあふ

うたとつさうとさうすうさうさう
 とさうとさうさうのあふまことさう

僧都源信

暁の待の
 登こそ
 うまう
 らがた
 浮世は
 あけぬと
 おのふ



○月あいのりてふあはらまぬ月のうち

うつしのどきと 器あぞありたる

とまのゆきすきてちやきの笑のどく

ひきう入一をよ申こまりの服

○美法と見る人どふのどろこま

かめをもあくと一トうちみむ

何のうらとさ一はよのころく

今をあらやゆのとあづみ

○親近きんくのたふまうせくはふあるとらみあうら

とうく不鳴あり親まをいれあも一人もあ一志やうこも

えまはのあひ人の性どらけつて地獄あを

きんふといのほとくきあぐの法戒なるとまらるる

刑それごとく憎れどらうありあふ我も一人もあうらあ

さうく隣きんくの法をえんぐとでもあひのあう

月あとのあまのあうらあ一人のきんふとて地獄あ

○教もすぐくのたふとらうあ

こがをあをさづねのうら

うらあうらうらうらうらうら

あうらうらうらうらうらうら

○かめひらまはる人あうらあああ

をのやうあこらうあけまを

うらうらうらうらうらうら

あうらうらうらうらうらうら

○ふとくげあもこらうあああ

さうらうのああさうらあうら

さうらうああさうらあうら

○あうらあああああああ

さめぬころうとあげさつころう
さめぬころうとあげさつころう
さめぬころうとあげさつころう

○つが法といえどもゆりぬ春のたまふ

ひくもてあつてつちとまをるれ

さるくれが寝あつるたまふとくつり

此の法といえどもゆりぬ春のたまふ
ひくもてあつてつちとまをるれ
さるくれが寝あつるたまふとくつり
つちとまをるれ

一体の心ころうとあひひるるふ。観心子の風おふかせる

あり。多心子の物おふ

観心子の物おふ

観心子の物おふ

とあり一が一体の物おふ

観心子の物おふ

観心子の物おふ

とよませるよまは観心子の物おふ。さういふ文珠
ありといひつて人し。一体の心ころうとあひひるるふ。
観心子の物おふ。観心子の物おふ。観心子の物おふ。
とあつて。観心子の物おふ。観心子の物おふ。観心子の物おふ。
めき月ころのめふも観心子の物おふ。観心子の物おふ。
子休も観心子の物おふ。観心子の物おふ。観心子の物おふ。
かこころとくつり。観心子の物おふ。観心子の物おふ。
とあつて。観心子の物おふ。観心子の物おふ。観心子の物おふ。

一休和尚狂詩二十首

一休不言卷五

飄盪不
簞笠
題
不
鼓
不
齒

全元
射來
有
題
法
有
何
益

無今
蓑日
彼
岸
欲
開
鉢

欲往
向昔
橫江
斜南
暎落
古時

夜深
依被
半風
食

入道
生
脩
忍
動
時
事

一
切
來
有
言
更
無
言

若紅
有顏
貧綠
僧髮
憐冠
怒沙
志

少
年
無
心
多
世
上

花東
西
十
方
淨
土
春
身

起揚
居同
靜揚
似伸
人

結餘
身
食
大
引
腰
飯

伊起
勢壺
底
暗
皺
眉

天至
曉鐘
味
作
眠

須
魁
推
去
革
頭
巾

十
百
方
諸
佛
出
身
門

察况
前忘
吹御
味年
致十
推二
參三

鳴呼
是紅
此顏
玉花
環似
哉閑

其
三

十
八

生年 忽伸 漫伸 長江 萬騎 秋射 射風 又木 有真
 十熊 左滄 源不 下谷 一有 有名 八綴 白青 綴物 地
 美招 取已 郎英 源合 八能 之思 深扇 切
 男於 來落 流雄 氏戰 島登 壇出 青切 落
 兒敦 都弓 引恨 兵音 漸守 浦夏 夕夕 落
 盛 音 命 碎 玉 回 馬 時
 天怡 下如 英初 雄月 在鼓 中
 昨夜 風運 濤盡 戰出 鼓堅 聲城
 狼籍 忠遠 信都 亡源 菊九 王郎
 宇治 川畔 乱飛 堂
 日本 晴時 如見 星
 戰音 治本 晴時 如見 星

一休不 言卷五

佛菩 無提 平公 大生 萬汝 民是 手看 中画 無若 若眾
 虛煩 贊愛 尊贊 不柔 贊經 忽贊 無天 然
 言惱 布鼠 天大 世願 阿卷 忘兒 茶然 好
 袋是 其黑 跡是 七文 又好 富貴
 睡裏 乾 何事 一陀 佛字 師 無富 貴
 不救 我無 一願 定有 愁人 小艷 詩
 足諸 下人 米信 囊仰 無置 用相 心陰
 山摺 僧切 風爭 流可 只入 文徒 字意
 雲髮 霧鬢 少年 姿

一休不 言卷五

熊谷道心從是發
功萬騎如雲
名誰出四郎上

右

一休和為性生怨百首とて

阿弥陀仏とれ
まよふるうの
徳教をこの
二玉の香りの
あやのり人と

二玉の法の一
あやのり人
むじより
二世あんら
二玉の法
くはあんら

一休小まこの
そのゆくま
及ふ入ま
及氏源氏の
ゆのふの
とんせの
徳教と
あんん
あふあり
とんせの

くは武蔵の
くまより
せんちより
けふま
今ゆま
あさんの
大層の
とよふ
田大
まこの
あふあり
あふあり

おや 鐘かねおたや 春はるある人々を
おふありても 菩提ぼだいのあゆし

世とのりれ 鐘かねのたひ別わかて
智ち者しやも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

仏ぶつ像ざうも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
二に世よ安やす樂らくの 引ひく 人ひとなり 乃なり

諸しよ人にんの ねんん 乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
生せい死しを 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

仏ぶつ生せいの 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
まよふ 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

仏ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
りんりん 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

何なにも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

一ひと念ねんの 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ像ざう 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ像ざう 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

佛ぶつ乃なり 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも
亦またも 亦またも 亦またも 亦またも 亦またも

比丘のついでに
人のなんやぶるうらめ

世の中ふかださると自慢して
名利もとむる人のむねさよ

残室の守のあさうとさきま
ふとよ求むるさうさうさ

ぬと利とと求むるものくげんや
人ふつうとて然ふつうそれ

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

うらうらとて地獄もそれあるなれ
あゝわんはむらまきとてあひん

高木の三合のたるの死もま
現世のあひだとてなま

正法の死園の山の系や木と
あうりのそるとあまきやま

今とて天地のたのうらわ
まつせの殺木あまき

殺せよまてあまきもあまき
こまてあまきもあまき

あひんせけんせいのふとあ
あひん実の人あまき

殺せよあまきもあまき
人のあまきもあまき

人の罪のあまきとてあまき
殺せよあまきもあまき

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

うらうらとて地獄もそれあるなれ
あゝわんはむらまきとてあひん

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

うらうらとて地獄もそれあるなれ
あゝわんはむらまきとてあひん

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

うらうらとて地獄もそれあるなれ
あゝわんはむらまきとてあひん

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

うらうらとて地獄もそれあるなれ
あゝわんはむらまきとてあひん

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

あゝわんはむらまきとてあひん
あゝうさきとてものうらけり

とへるものやむいせかふま多し
とていふふれ然とてうねよ

飛騨の海をたふさふもや
産後産後産後産後産後

まろしあやまの海も極女の
池妹とてあやまの海も極女の

十方一のみの海も極女の
池妹とてあやまの海も極女の

こと

いんげん末代まで出世まぐりずと作らぬ和尙自らの一代も
出まのまよりまきりけはとどの。出世の法徳もいひ名譽もとてけ
いさうふ。和尙のいふくろりり。自宮ふい名譽の海も極女の
いさうふ。和尙のいふくろりり。自宮ふい名譽の海も極女の
死して百年すぎた。唐より後附きさうふ。我々果とてかひんま
二百年ふまるといふ死骸とていりり。大い。大い。大い。
くちとていひい。大い。大い。大い。

死がひいそとねまどとのさまひいとなり。物ふふ百余年ゆへ
隠れおぼえありとておぼえあるき隠れおぼえ一休和尙の海も
あるべし。まろしあやまの海も極女の海も極女の海も極女の
あり。又今の和尙のいふくろりり。自宮ふい名譽の海も極女の
いさうふ。和尙のいふくろりり。自宮ふい名譽の海も極女の
死して百年すぎた。唐より後附きさうふ。我々果とてかひんま
二百年ふまるといふ死骸とていりり。大い。大い。大い。
くちとていひい。大い。大い。大い。

發行書林

大坂 東 都

山	山	丁	和	田	須	椀	小	山	須	出	秋	河
口	寄	子	泉	田	原		城	原	雲	田	内	
屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	林	屋	寺	屋	屋	
藤	清	平	市	嘉	伊	伊	新	佐	茂	萬	太	茂
兵	兵	兵			兵	兵	兵	兵	次	右	兵	
衛	七	衛	衛	七	八	衛	衛	衛	郎	門	衛	

一休一代記圖會卷五 大坂

くもかみぐまふ
 魁の月つきのななききのの涙なみだるる
 ぢぢぢのうまのの下したががくくままぢぢるる
 むぢけぢけののかかららぶぶ一一ふふ突突ととののくく
 地獄ぢごくののああままけけててぬぬるるああ

一休一代記卷五

十三

